

資料3 - 4

科学技術・学術審議会産業連携・地域支援部会
第9期地域科学技術イノベーション推進委員会
(第1回)
H30.4.20

地域における科学技術イノベーションを推進する にあたって

西村訓弘

三重大学副学長(社会連携担当)

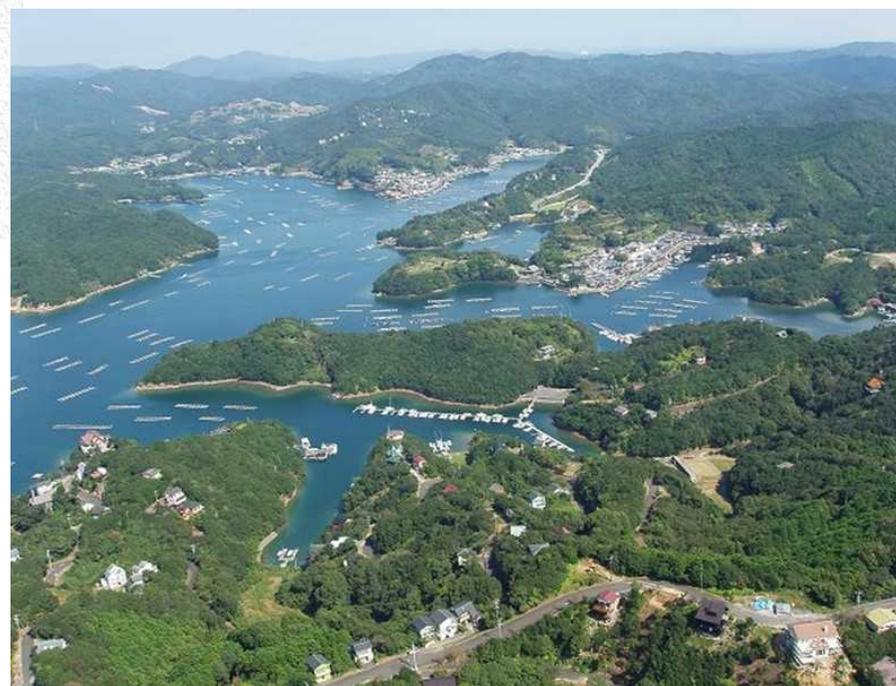
経歴

学歴

- 1983年 三重県立宇治山田高等学校 卒業
- 1987年 筑波大学農林学類生物応用化学主専攻 卒業
- 1995年 博士(農学・筑波大学) 授与

経歴

- 1987年 (株)神戸製鋼所 生物研究所 研究員
- 1996年 Pall Corporation (米国) 及び日本ボール(株) 研究員
- 1998年 日本グラクソ(株) 遺伝子研究部 研究員
- 1999年 (株)ラボ ジェネティックラボ事業部 主任研究員
- 2000年 (株)ジェネティックラボ 主任研究員
- 2002年 (株)ジェネティックラボ 代表取締役社長
- 2004年 三重大学医学部産学連携医学研究推進機構・特命教授
- 2006年 三重大学大学院医学系研究科・教授
- 2009年 三重大学・社会連携担当学長補佐(兼務)
- 2013年 三重大学・副学長(社会連携担当)(兼務) * 現職
- 2016年 三重大学大学院地域イノベーション学研究科・教授 * 現職



私が生まれ育った三重県南島町(現南伊勢町)

地域における科学技術イノベーションを推進するにあたってどうすればよいか？

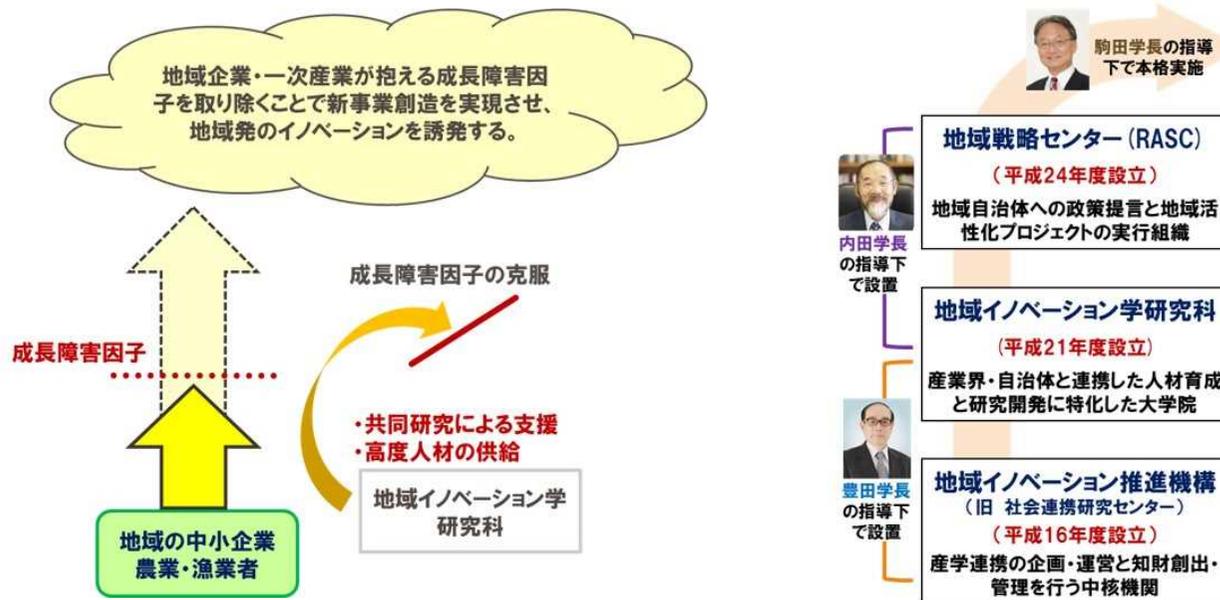
(私見)

- 「イノベーション」の解釈に再定義までは必要ないが、日本の社会背景・現状に照らし合わせた再認識を行うことが良いと感じている。
- 三重県では、革新技術が誘発する事例に加え、地域内での新たな結合が飛躍的な富を生み出す事例が生じている。

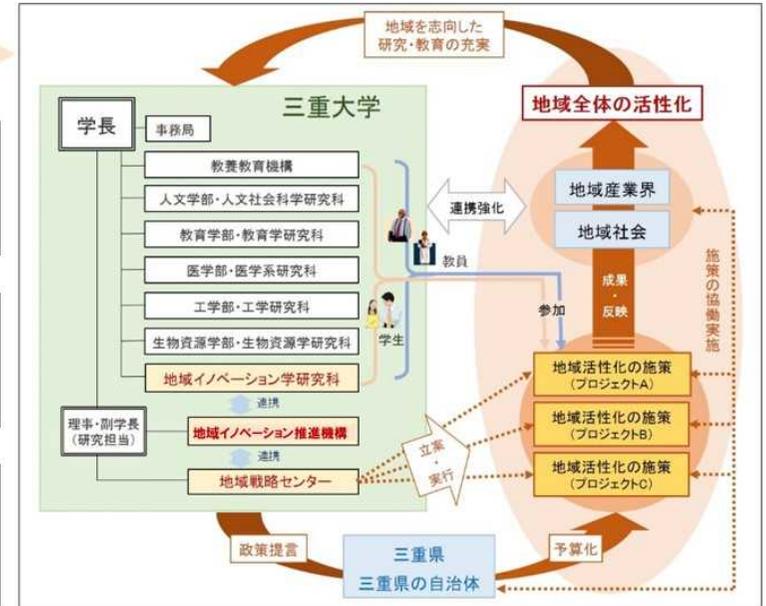
シュンペーターは、**イノベーション**を経済活動の中で生産手段や資源、労働力などをそれまでとは異なる仕方でも新結合することと定義した。イノベーションのタイプとして下記の5種類を挙げている。

- 新しい財貨すなわち消費者の間でまだ知られていない財貨、あるいは新しい品質の財貨の生産 - プロダクション・イノベーション
- 新しい生産方法の導入 - プロセス・イノベーション
- 新しい販路の開拓 - マーケット・イノベーション
- 原料あるいは半製品の新しい供給源の獲得 - サプライチェーン・イノベーション
- 新しい組織の実現 - オルガニゼーション・イノベーション

○三重大学は、「地域イノベーション」を「地域内の新結合による新たな価値の創造」と想定し、2009年に地域イノベーション学研究科を新設した。



三重大学地域イノベーション学研究科の概念



産学官連携の三重大学モデル

三重大学が取り組んでいる最近のプロジェクト

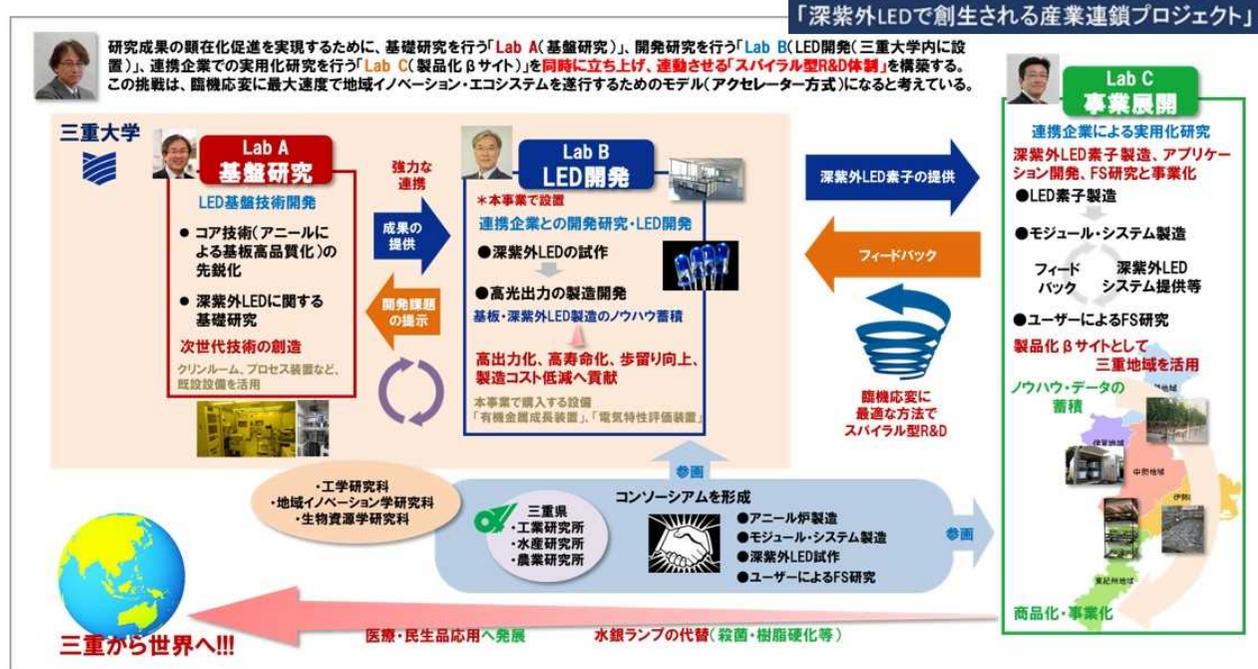


三重県北部

北部は桑名市、四日市市、鈴鹿市を中心とした中部経済圏の一翼を担う日本でも有数の工業地帯であり、自動車、電機分野の日本を代表する大企業の主力工場が集積しており、大企業向けの部品製造で長い歴史を持ち、高度な技術を蓄積した中堅企業が数多く存在している。

三重県南部

松阪市、伊勢市を中心とした農業地帯であり、その原材料を活用した日本を代表する食品製造企業が多く存在する。県の西側には鈴鹿山脈、大台ヶ原の山々が存在する平地の少ない地勢であり、零細な農業が各地域の生活を支え、林業、漁業を営むという典型的な一次産業が中心の地域となっている。



辻製油株式会社
1947年に国産なたね搾油専門工場として、辻製油所を創立し、食用油の精製・販売を行ってきた松阪市の企業。食用油精製残渣からレシチン、セラミド等、機能性素材を独自技術で製品化するなど、食素材の総合メーカーとして成長を続けている。

辻保彦 社長

株式会社浅井農園
明治40年に創業し、津市高野尾町を拠点に植木や苗木の生産卸事業からトマト栽培販売事業へと展開し、農業経営人材の育成、サプライチェーン構築を積極的に行っている。

浅井雄一郎 社長

「うれし野アグリ株式会社」
辻製油(松阪市)と浅井農園(津市)が連携し、2013年の構想から約2年で、うれし野アグリが創業した。

工場(企業)と施設園芸(農業)が連携し、暖房/冷房/除湿を工場排熱利用で賄う最先端農業を実現(県内の一次産業者と二次産業者の融合で創出)

約90名の雇用創出と障がい者が活躍できる場を構築し、国内最高レベルの高収入農業(反収1,500万円=稲作農業の100倍以上)を実現した。

Leapfrogging



リープ・フロッグ型発展

技術などが段階を飛び越えて一気に進展する変化の形態。

三重県で生じていることは

先進国における新たなLeapfrogging現象？

(つまり、これが「地域イノベーション」の姿？)

○地域における科学技術イノベーションについて

(私見)

- 地域における科学技術イノベーションには、「地域の強みから生み出される革新技术が地域内での新たな融合を誘発することで生まれるイノベーション(地域発技術誘発型イノベーション)」と「地域内での革新的な組み合わせから生み出されるイノベーション(地域内新結合誘発型イノベーション)」の少なくとも異なる性質の2種類が存在するように思う。
- 地域特性に合わせた最適な「科学技術イノベーション」を考え、誘発する必要性を感じる。



○審議を進めるにあたっての視点と調べるべきことについて

(私見)

- 国内外の地域で生じている「科学技術イノベーション」の事例を調べ、各地域でのイノベーションの形態について特性を把握し、分類分けを行うことが必要ではないか。
- 成功事例の分析を基に、それぞれのイノベーションの形態における成功のカギとなる要因等の分析を行う必要があるのではないか。
- 地域特性に合わせたイノベーションの形態を的確に想定し、各々に最適な方法で「科学技術イノベーション」を丁寧に誘発する必要があるのではないか。